

(別紙) グループホームしおさい事業所自己評価 2023. 3. 16 しおさい運営推進会議～

| No. | タイトル | 評価項目 | 自己評価 | 記述 | 運営推進会議で話しあった内容 | 外部評価 | 記述 |
|--------------------------|-----------------|---|--|---|---|--|-----------------|
| I. 理念・安心と安全に基づく運営 | | | | | | | |
| 1 | 理念の共有と実践 | 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 朝礼で事業所の理念と委員会で作成した目標スローガンを毎朝唱和し、職員間の共有を図り、家庭的なケアについて職員で意見交換しながら日常で具体的に実施できるよう取り組んでいる。 | | | |
| 2 | 事業所と地域とのつきあい | 事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 依然コロナ禍において、地域の公民館活動、サロン活動も軒並み自粛。保育園との交流事業については、社会福祉協議会様の仲介もありオンラインにてミニ敬老会を開催。トライアルウィークも受け入れの体制はとっている。通年の交流は図れないも、地域の機関紙や SNS にて事業所からの発信など行っている。 | 家族や地域交えて行っていた秋祭りの開催については、コロナ禍に入って以降開催できていない。 | | |
| 3 | 運営推進会議を活かした取り組み | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 2か月ごとに開催し、淡路市、地域包括、民生委員、町内会、社会福祉協議会が参加。新型コロナウイルス感染拡大時期発は、保険者に確認のもと書面の開催をとってきた。コロナ禍の波によって、事業所開催と書面開催を交互に繰り返している状況。 | 脱コロナ以降、事業所での定期開催ができれば…。一宮地域、郡家地区の入居者や、認知デイ再開、緊急ショートも本格的に動き出したので、地域の利用者の個別の支援の輪に入っていきたい。 | | |
| 4 | 市町村との連携 | 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 淡路市長寿介護課担当者や地域包括支援センターから相談等受ける体制はとっている。今年度は緊急ショート相談はあり(実際の利用には至らない)。困難、緊急を要するケースには柔軟に対応していく。 | 認知デイ、緊急ショート稼働により、入居だけでなく、いろいろな相談がもらえるような事業所体制になってきた。応えていけないといけない。 | | |
| 5 | 身体拘束をしないケアの実践 | 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 身体拘束についての勉強会、委員会を持ち、内部研修継続。施設玄関は、離施設の危険がある為、安全を第一とし、職員の操作で解錠することは継続。ユニットの玄関扉など | | A. 十分にできている×2名 B. ほぼできている×3名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | ● コロナ禍で大変だったと思う |

| | | | | | | | |
|----|--------------------|--|--|--|--|--|--|
| | | | | 他の窓、扉については防犯のため夜間施錠を除きできる限り開放している。 | | | |
| 6 | 虐待の防止の徹底 | 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 例年、高齢者の尊厳、虐待／身体拘束の勉強会を実施。委員会において、その都度課題を検討し、スローガンを数か月ごとに更新。朝礼で唱和し、啓発に取り組んでいる。長寿介護課上野様～昨今は介助者側が受けるハラスメントの問題もある。そういう意味でも職員教育や労働環境の整備は大切では。 | | A. 十分にできている×2名 B. ほぼできている×3名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | ●職員が不安を感じたり、気になる事例等を共有し、防止対策、意識向上に努めて欲しい ●利用者の表情がいいと思う。 |
| 7 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 | 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 例年、職員会議で、高齢者の尊厳、権利擁護の勉強会(教育訓練)を行ってる。現在制度利用者はいない。 | | | |
| 8 | 契約に関する説明と納得 | 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 契約時にはケアに関する理念、方針、取り組みと、退居を含め、説明している。本人、家族にとっての、不安 疑問などに十分説明するようにしている。 | | | |
| 9 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 | 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 家族には、コロナ禍にあたっても意図的に月に1回以上は来所される機会を持ち、利用者の近況等を報告するようにしている。家族から話しやすい環境作りに努めている。管理者への意見用紙も設置している。定期的に家族の意向、意見については、介護計画作成時に確認をしている。 | | A. 十分にできている×2名 B. ほぼできている×3名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | ●コロナ禍でもオンラインも利用して交流の機会を持っていた。 |
| 10 | 運営に関する職員意見の反映 | 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 職員会議・個別面談などで意見を聞く機会を設け努力している。日常での職員との会話、コミュニケーションを持ち、職員側からは、管理者に対して相談や、話しやすい環境作りに努めている。 | | | |

| | | | | | | | |
|----|------------------|---|--|---|--|--|---|
| 11 | 就業環境の整備 | 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 職員の高齢化など現場の状況を把握しながら、その中でモチベーションの維持、努力などを知るよう努めている又、職員の資格取得、研修など参加の機会を推奨している。 | | A. 十分にできている×2名 B. ほぼできている×3名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | ●介護人材の確保が困難な状況であるが、人員基準を下回らないよう職員の資格取得等、研修は意識的にすすめてほしい。 ●犬の保護についても、職場内でボトムアップを意識して話をしてくれていた。 |
| 12 | 職員を育てる取り組み | 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 法人内の研修会に全職員参加(コロナ禍で休止中)。職員のスキルアップの為に、事業所内で年間教育計画で勉強会を実施。主たる職員、専門職が講師を担当し、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。 | | A. 十分にできている×2名 B. ほぼできている×3名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | ●昨年度は社会福祉協議会よりひきこもり支援への講習会も実施していた。 |
| 13 | 同業者との交流を通じた向上 | 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 管理者は市や社協が開催する会議への出席や他機関他専門職と意見交換する場へ出席。相互に運営推進会議に参加をするなど情報交換にも努めている。職員に対して事業所としての地域の在り方など周知展開を行っている。 | | | |
| 14 | 本人と共に過ごし支えあう関係 | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 利用者は地域住民としての視点から、相互に信頼関係を築き、共同生活を過ごしていけるように努めている。また日常生活の中で利用者が本人の役割を持てるように心掛け、職員からは尊敬の念を忘れないよう、且つ、相互に協働して暮らしていけるように取り組んでいる。 | | | |
| 15 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 感染予防対策のため、ソーシャルディスタンス等面会制限に協力を得ながら(制限時は窓越し、ベランダ越し面会、緩和時は屋外でのベンチ面会)、SNSの発信ツールを定期発信するなど、離れて暮らす家族や知人らとの関係性の維持に努めている。 | 左記の面会は顔が見れてよい取り組みでは。依然、施設ではオンラインや予約など面会にハードルが高い事も多い。コロナ禍においては、家族との関係性を狭めることにもなり、現在の形でのいいのかいつも葛藤がある。今年度は敷地内ベンチで屋外面会も時期をみて開始した。感染予防に留意することは変わらないが、今後は外出や帰宅の機会も時期をみて検討していきたく。 | | |

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

| | | | | | | | |
|----|----------------------|---|--|--|---|--|--|
| 16 | 思いや意向の把握 | 一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。 | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 個々の思いの把握に努めている。訴えが多く、対応に戸惑う利用者には、担当者会議以外にもミニミーティングを随時開催。利用者家族互いに本人らしい暮らし見だし、支援できるように努めている。 | | | |
| 17 | チームでつくる介護計画とモニタリング | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 利用者本人の意向、家族の希望、意向を聞きながら、毎月1回各利用者担当者、計画作成担当、管理者、ユニット介護職員で検討し、出来るかぎりご本人らしい日常生活を送れるよう介護計画の作成に努めている。 | 各種記録用紙、経過記録、介護計画の紹介。H様事例。介護計画は定期で見直しも継続的に行っている。チームケアには反映できている。H様はご家族のサポートとしても、夫の相談に地域包括井上保健師も相談にのることも。ご家族の認知症への理解、家族のカタチとしてもサポートして行っている。課題としては個々の認知症への理解とケアが、長年のなかで支援者慣れしてしまっている点もある。 | A. 十分にできている×4名 B. ほぼできている×1名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | ●利用者本人や家族の希望を聞きながら、本人らしくできるだけ自立した生活を続けることができるよう、目標設定がとても大切だと思う。機会あれば目標など計画もみせてもらえたら。 |
| 18 | 個別の記録と実践への反映 | 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 利用者の日々の状態を個別に記録しており、職員間の情報の共有を徹底し評価を実施。ケアプランも評価しやすい記入方法で情報の共有に努めている。 | | A. 十分にできている×3名 B. ほぼできている×2名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | ●個別記録は利用者の重要な情報であるため本人(家族)の意思を尊重し、個別計画の見直し等適切に行って頂きたい。 |
| 19 | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 | 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 共用型認知症デイサービスでは、コロナ禍に応じながらサービス継続を探る。またショートステイも空床、緊急共に感染予防をより図りながら実施。緊急ショートについては担当ケアマネの判断によるが、結果としてデイショート、入居を複合的に組み合わせた事業所多機能化が確立してきた。 | 地域の関係機関には周知できつつあるが、住民に対してもっともっと実支援の取組みで周知してもらえようになりたい。緊急ショートについては、ケアマネ兼現場責任者がまず夜勤等に率先して入り、アセスメントをしながらの受け入れ。緊急性と安全性を担保しながら事業所の体制を整えていく。依頼する側、利用する側とっても安心かと思う。 | | |
| 20 | 地域資源との協働 | 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | コロナ禍の継続拡大下、今年度も外部、地域との交流も制限されてしまったことが実情。感染症法の分類の見直しに伴い、感染対応も見直していくことが迫られる。利用者の地域との直接的なつながりを再開できるよう策を講じる必要がある。 | 脱コロナが進み、一人一人のつながりや背景を地域の中で見つけていきたい。支援のなかに組み込んでいければ。 | | |

| | | | | | | | |
|----|---------------------|--|--|---|--|--|--|
| 21 | かかりつけ医の受診支援 | 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 利用者には、入居前の主治医に引き続いて担当してしてもらう。看護体制は昨年度より配置。訪問診療を定期的にしてもらえる近隣の医院との協力体制もあり、利用者、家族のご都合に合わせ相談。随時施設側でも受診支援を実施。昨年度に比べて医療面でのケアの質も向上したと感じている。 | | | |
| 22 | 入退院時の医療機関との協働 | 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 入院した際には、病院側との情報提供や情報交換(FAX や電話等)を行っている。退院の前には、介護支援専門員、看護師らが病院側のカンファレンスに必要時に参加したり、情報提供を受け、退院後の生活に活かしている。 | | A. 十分にできている×1名 B. ほぼできている×4名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 【 】 |
| 23 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 | 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 終末期のケアは行っていないが、重度化については、指針を作成。家族に前もっての説明し、状態悪化時には施設内でできる事の提案を常に行っている。また、要入院状態や、特別養護老人ホームへの入所や入院加療までは、できる範囲でのケアに努めている。退去者にあたっては、特養入居に比べて、長期入院、入院逝去の割合が増えてきた。 | | A. 十分にできている×1名 B. ほぼできている×4名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 【 】 |
| 24 | 急変や事故発生時の備え | 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 急変時の対応マニュアルや、夜間の緊急マニュアルを作成し周知。連絡連携体制も強化。また、急変時は、すぐに救急車を要請するまでの周知している。 | | | |
| 25 | 災害対策 | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 総合防災訓練/避難訓練を実施している。避難確保計画や厚生労働省指定の事業継続計画のベースは作成済み。今後は継続的に改善し、計画を具体的に職員間に周知、また地域の訓練等にも参加などにつなげていきたい。 | 他地域では福祉避難所の開設訓練も実施しました。指定は受けていないが、依頼があれば応じる準備をしたい。町内会長様～漁港はハザードマップでも浸水域に入る。しおさいは比較的高い域に位置。津波、洪水については、垂直避難としている。また次 | A. 十分にできている×2名 B. ほぼできている C. あまりできていない×3名 D. ほとんどできていない | ●避難確保計画に基づき、定期的な訓練の実施。地域住民との連携に努めてもらえたら。また計画の内容もきいてみたい。 ●地域でも訓練等を行うように始めている。共に話し合うなかで、計画的な訓練につなげてほしい。 |

| | | | | | | | |
|----|----------------|--|--|---|---|--|-----|
| 31 | 排泄の自立支援 | 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 排泄状況を把握するため、排泄表に記入し排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を前提としている(一部夜間のみおむつ交換)。2人介助者も複数。利用者全員がトイレでの排泄の機会を持っている。 | | A. 十分にできている×1名 B. ほぼできている×4名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 【 】 |
| 32 | 入浴を楽しむことができる支援 | 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 入浴拒否の利用者に対しては、声かけの時間を空ける、職員を変えるなど工夫し、翌日に変える等、都度によりや時間を変えたりしながら入浴できるように対応している。立位困難で、個浴への移乗が難しい複数の利用者には2名体制で対応している。 | | | |
| 33 | 安眠や休息の支援 | 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 夜間の安眠を図る為、充実した活動を心がけている。個々の生活習慣を把握、生活リズムを整える一環として、コロナ禍でも気候のよい時には、陽を浴びて頂く機会も設けてきた。状況に応じ休息をとって頂くよう支援している。高齢で体力が低下した利用者には昼寝の時間をとれるようにしている。 | | | |
| 34 | 服薬支援 | 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 緊急時対応ファイル、お薬手帳にて職員がいつでも把握できるようにしている。内服薬投与時は、薬と利用者の名前確認し、利用者の前で名前を復唱し、手渡し服用するまで確認をしている。薬の変更、状態変化時は各主治医、薬剤師、事業所看護師等の連携が出来るようになっている。 | | A. 十分にできている×2名 B. ほぼできている×3名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 【 】 |
| 35 | 役割、楽しみごとの支援 | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | アセスメントを把握し、日常生活を過ごしていく中で得意分野や出来る事、嗜好を探し出し、できる事は発揮できるように声かけし促している。個々に合った役割を見つけ楽しみとなるように心がけている。 | 時間の過ごし方は長年のスタッフの経験もあり、工夫、選択肢も多い。2階ユニットはご利用者のできる事も多く、仕事、役割の提供に工夫もしている。支援者側の思いの余暇活動にはならないように留意はしたい。 | | |

| | | | | | | | |
|--|---------------|--|---|--|--|---|--|
| 36 | 日常的な外出支援 | 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない | コロナ禍のもとで外出は控えざるおえない状況であった。屋外での対応や散歩などは季節気候に応じて継続している。今後は、感染症法の見直しのもと、外出交流についてどうやって以前のかたちに戻していけるか。工夫が必要である。後は、感染症予防対策のうえである。 | 今年度は、以前を取り戻そうと、タイミングも重なり、公用車を7人乗りに新調。外出、交流行事は再開していきたい。シンボルとなれば。コロナ禍と付き合いながら…。社会福協議会引野ケママネ〜宮社協でひな人形を飾ってある。地域の人にも来てもらい写真等とってもらった。今月中に伺いたい。 | | |
| 37 | お金の所持や使うことの支援 | 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない | 家族の了解の元、自分でお金を持つことはできる限り尊重している。実際に所持されている利用者は限られている。 | | | |
| 38 | 電話や手紙の支援 | 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | A. ①十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 本人から希望により電話や手紙を出せるよう支援体制でいる。家族に電話したい利用者や家族からの電話にはその都度気持ちを尊重し、対応している。複数人以上が定期的な機会を持っている。 | | | |
| 39 | 居心地のよい共用空間づくり | 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている | A. 十分にできている B. ②ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 写真、家具、飾り物などは、入居前に自宅で使っていたもの物等を可能な範囲で入居後も使用できるよう配慮したり、また、家族に相談しながら、配置してもらっている。家族との写真や、日用品なども個々に合わせた工夫もしている。今年度も居室に仏壇を設置した利用者もいた。利用者にとって居心地の良い空間、居室環境となるよう努めている。 | A. 十分にできている×1名 B. ほぼできている×4名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | ●利用者の環境については、コロナ禍により確認できない。今後、可能な範囲で確認できれば。 | |
| IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目) | | | | | | | |
| 40 | 本人主体の暮らし | 本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています | A. 十分にできている B. ②ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | 本人の意向をくみ取り、生活ペースを大切にしている。時に意向を図りかね、怒りっぽくなってしまいう利用者もいる。職員都合になっていないか常に振り返りが必要である。継続的な課題でもある。 | | | |

| | | | | | | | |
|----|----|--|---|--|--|--|--|
| 48 | | 本人は、自分なりに近隣や地域の人々に関わったり、交流することができている | A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない | <p>コロナ禍のなか、行事についても事業所での開催や、交流の機会もオンラインに限られてきた。来年度からの感染予防をはかりながらも、より交流の機会を質、回数を増やしていくことは課題である。</p> | <p>社会福祉協議会の橋渡しもあり、オンライン(zoom)にて多賀保育園児と幼老の交流ができた。ミニ敬老会。昨年度と比べてもプレゼント交換などよことはコロナ禍においても一つ新たな発見ができた。</p> | | |
| 49 | 総合 | 本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている | A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない | <p>コロナ禍で様々な制限下が続いた。今後は、感染症予防には留意しながら、グループホームの本質に立ち返ることが求められる。気持ちや身体の変化により、自宅での生活が難しくなり、住まいが変わっても、家族や仲間、地域とのつながりを持ちながら共に暮らせるようにしていく。地域、市内でよりよいグループホームにしていきたい。</p> | <p>市内でもよりよいグループホームになるように、日々のご利用者ご家族への支援や、地域との関わりを深めていきたい。</p> | A. 十分にできている×1名 B. ほぼできている×4名 C. あまりできていない D. ほとんどできていない | <p>●コロナ禍で利用者の生活環境の詳細が十分に確認ができない。今後可能な範囲で、施設の見学ができれば。</p> |